

「夢への挑戦」を頑張る3年生へ（合格だるま）

小野中学校長 大河原 久宗

1 「だるまの目の入れ方」について

ダルマは目の部分が空白になっており、人々がそれぞれの願いが叶うようにダルマの片目に目を書き入れ願掛けします。これを「開眼」と呼びます。その祈願が叶うと、もう一方の空白の目の部分を書き入れるという風習があります。だるまの目の入れ方は、地域によっても異なりますし、願う目的によっても違う場合があります。言われは様々です。

例えば、群馬県の「高崎だるま」の場合だと、まず左目を入れて、願いが叶ったら右目を入れる開眼が一般的ですが、神奈川県「相州だるま」の場合は、基本的には同じですが、選挙の時には、その逆で、最初に右目を入れて、当選したら左目を入れるようです。合格祈願や就職祈願の場合にも、右目を入れておいて、成就したら左目を入れるという地域もあります。



「だるまの目の入れ方」（開眼）

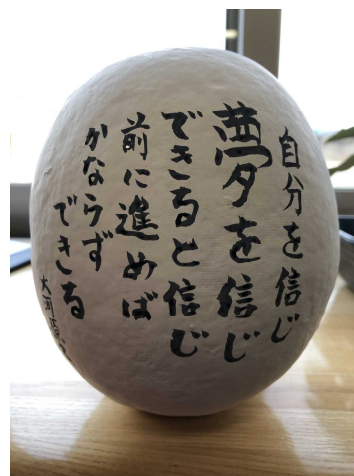
- ① まず、心を静かに沈めて、達磨（ダルマ）の前に向かいます。
- ② ダルマに願いを込めながら筆などで目を書きます。
(左目に入れる場合は、向かって右側になるので間違えないように注意して下さいね。)
- ③ これで開眼し、達磨さんに魂が吹き込まれました。

2 「だるまを置く位置」について

「東から生まれ、西で無くなる」という陰陽五行説の考えからすると、「ダルマの正面を南向き」に置いた時に、ダルマの目の左目は東、右目は西の方角になります。一説では、一般的なダルマの目の入れ方で、「左目から入れて、右目を入れる」というのは、だるまの正面を南に向けた時、左目が東、右目が西の方角を示すことに由来しているとも言われています。だから、「南向きに置くのが良い」ということなのでしょう。また、昔は神棚に飾られていたということから「東向き」も良い方角と言われることもあります。

置く場所についても決まりはないようですが、だるまを置く前はきちんと掃除をしてその場を清めてから置きましょう。置いてからも埃などで汚れたままにならないようこまめにお手入れしましょう。

出来れば、いつも目にする良く見える場所に置くことで、「いつの間にか願いを忘れてしまった！」なんてことを防ぐ効果もあります。特に合格祈願などの場合は、ダルマを見ることにより、自分の目標を常に意識できるので、しんどくなってサボりたくなった時に、願いを込めて入れた片目を見て「改めて頑張らないと！」と気持ちが引き締まり、自分に“カツ”（活）（勝）を入れる効果が期待できるかもしれませんね。



「願いが叶ったら…」（満願）

- ① 願いが叶ったら、もう片方の目を入れます。（満願）
- ② 祈願が達成されたダルマさんは、購入した神社やドン土焼きで燃やしてもらいます。